



一般社団法人 長野県植物防疫協会  
 〒380-0837  
 長野市大字南長野字幅下667-6  
 長野県土木センター内  
 電話 026-235-3510  
 F A X 026-235-3583

◇令和5年農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点…… 1	◇植防短信…… 7
◇マルチコブターによる病害虫防除について…… 4	◇地域情報…… 8
◇雑草イネの防除技術について…… 6	◇協会だより…… 8
◇話題の農薬「テッパン液剤」…… 7	

## 令和5年 農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点

農業技術課 副主任専門技術員 金子政夫

令和5年2月に発刊された「令和5年農作物病害虫・雑草防除基準」において、新たに普及に移す農業技術に採用された農薬や防除技術の追加・変更等の主な改正点を下表にまとめた。なお、紙面の都合上、農薬登録変更に伴う使用基準（使用時期や使用回数など）の変更や登録失効等については省略した。

### 1. 病害虫防除に関する主な改正点

作物名	対象病害虫等	改正内容	改正理由等
水稲(食用イネ)	種子伝染性病害	<b>【種子～育苗期】</b> <育苗期の防除（温湯処理を除く）> 1(3)有機物含量の高い軽量培土は、粒状培土と比較し、もみ枯細菌病（苗腐敗病）の発生を抑制する。 <b>【別表1】 - 【注意事項】</b> 7(6)有機物含量の高い軽量培土を用いた育苗において種子消毒として生物農薬を使用すると、ばか苗病に対して効果が低下する場合がありますため注意する。	追加（普及）
	いもち病	<b>【苗箱施薬、移植時】</b> 新たに「いもち病」に「種前（浸種前）」の項目を設け、乾燥種もみ1kg当たりルーチンシードFSの12ml及び種子被覆剤（ペリディウム）2mlの塗抹処理を追加。 <b>【注意事項】</b> 1. コンクリートミキサーやビニール袋等を用いて塗抹処理する。 2. 薬剤処理した籾は1日程度風乾させる。 3. 本処理方法は、育苗方式に依らず一定の薬剤投下量を確保でき、高密度播種育苗栽培においてもいもち病に対する防除効果が高い。	追加（普及）
麦類	コムギ赤さび病	<b>【注意事項】</b> 1. 本病に対して「ゆめかおり」、「東山53号（ハナチカラ）」は強、「シラネコムギ」、「東山55号（しろゆたか）」はやや強、「ユメセイキ」は中、「しゅんよう」はやや弱、「ゆめきりり」は弱、「ハナマンテン」は極弱。 2. 5月上旬（県内では概ね小麦の出穂期～開花始に相当）に本病の発病が認められる場合は実害が生じる程度まで発病が増加するリスクが高いため、防除を行う。	追加（普及）
だいず	茎疫病	新たに「茎疫病」の項目を設け、フェスティバルC水和剤600倍液を追加。 <b>【注意事項】</b> 1. 本病は停滞水によって発病が助長させるため、灌水をしても停滞水が1～2日間で解消するように管理する。 2. 本剤は茎葉部からの吸収移行性及びガス化による効果はないので、散布むらのないよう均一に散布する。	追加（普及）

りんご	カミキリムシ類	【展葉期（発芽10日後頃）】 - 【注意事項】 8. この時期以降、カミキリムシ類の虫糞が認められるため、見つけ次第ロビンフッドを食入孔に噴射する。	追加（普及）
	リンゴワタムシ アブラムシ類	【別表-2】 トランスフォームフロアブル（リンゴワタムシは2,000倍液、アブラムシ類は4,000倍液）を追加。	追加（普及）
	ハダニ類	【別表-3】 エコマイト顆粒水和剤2,000倍液を追加。 【注意事項】 6. エコマイトとダニゲッターは同一系統薬剤であるため、どちらか年1回の使用とする。 7. エコマイトは成虫に対してやや遅効的な効果を示す。 28. エコマイトは、新梢伸長期のおうとう及びはくさいに薬害を生じることがあるので、飛散しないよう十分注意する。	追加（普及）
なし (2)幸水・豊水	黒星病	開花直前（1～2分咲）にミギワ20フロアブル4,000倍液を追加。なお、記載されていたカナメフロアブル及び注意事項2のフルーツセイバーは「落花直後」の項に移動。	追加（普及） ・変更
ぶどう	晩腐病	【別表-1】 生育期防除にセイビアーフロアブル20の1,000倍液、ミギワ20フロアブル2,000倍液を追加。 【薬害防止の注意事項】 2. セイビアーは幼果期（小豆大）以降の散布で果粉溶脱を生じることがある。 3. ミギワは果実肥大中期（大豆大）以降の散布で果粉溶脱を生じることがある。	追加（普及）
もも ネクタリン	せん孔細菌病	5月下旬の注意事項3（せん孔細菌病の多発園）にクプロシールド1,000倍液（炭酸カルシウム水和剤100倍液加用）と、「クプロシールドは開花期以降に散布すると薬害が発生するおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を必ず加用する。また、弱樹勢樹では基部葉が赤変、落葉する場合がありますため注意する。」を追加。また、【別表-1】にも同様に追加。	追加（普及）
もも		6月上旬の注意事項1に「せん孔細菌病の多発園では、この時期から7月上旬までバリダシン液剤5の500倍液、デランフロアブル600倍液、マイコシールド1,500倍液のいずれかを散布する。マイコシールドは薬剤耐性菌出現のおそれがあるので注意する。」を追加	追加
ネクタリン		6月上旬の注意事項1に「せん孔細菌病の多発園では、この時期から7月上旬までチウラムフロアブル（チオノック、トレノックス）500倍液、デランフロアブル600倍液、マイコシールド1,500倍液のいずれかを散布する。なお、早生種では使用時期に注意する。」を追加	追加
もも ネクタリン	灰星病	【別表-2】 バレード15フロアブル2,000倍液を追加。	追加（普及）
	コスカシバ	本文の8月中旬以降に、新たにコスカシバ防除対策の項目を追加。 1. コスカシバ発生園では、幼虫の食入時期を狙って成虫発生盛期（8月中下旬～9月中旬ころ）にフェニックスフロアブル4,000倍液を枝幹部にも十分量かかるよう丁寧に散布する。なお、この防除を実施しなかった場合、またはこの防除を実施しても虫糞排出が認められる場合は、必ず収穫後～休眠期の防除を実施する。 2. フェニックスは蚕毒に特に注意する。	追加（普及）
	モモハモグリガ	【別表-3】 エクシレルSE5,000倍液を追加。	追加（普及）
ブルー 日本すもも	ハダニ類	【7月下旬～8月上旬】 オマイト水和剤750倍液、ダニオーテフロアブル2,000倍液を追加。 【注意事項】 3. オマイトは樹勢の弱っている園及び干ばつ状態の園や、梅雨期及び曇天多雨の続いた後は、薬害のおそれがあるので使用しない。 4. オマイトはなしに薬害を生じる。 5. オマイトとダイアジノン混用しない。 7. ダニオーテは銅剤との混用及び近接散布で効果が低下するおそれがあるので注意する。	追加（普及）

		<p><b>【総括注意】</b>                  2. ダニオーテは銅を含む製剤との混用及び近接散布で防除効果が低下するおそれがあるため、使用の際は次の事項に注意する。                  (1)銅剤との混用はさける。                  (2)本剤を散布した後に銅剤を使用する場合は10日間以上散布間隔を空ける。                  (3)開花直前に無機銅剤を使用した場合は影響がないと考えられるが、展葉期以降に銅剤を散布した場合は本剤の使用をさける。</p>	
かき	フジコナカイガラムシ	<p>6月下旬にトクチオン水和剤800倍液、サイアノックス水和剤1,000倍液を、7月上旬にトランスフォームフロアブル2,000倍液を追加。  <b>【別表-2】</b>                  上記3剤及び薬害に対する注意事項を追加。</p>	追加(普及)
くるみ	炭疽病	オーソサイド水和剤80の800倍液及び注意事項(オーソサイドは14日間隔で散布)を追加。	追加(普及)
野菜類	コナジラミ類	推奨農薬として記載されていたボタニガードE S500倍液散布を削除し、参考農薬としてボタニガードE S1,000倍液散布を追加。	変更 (登録変更)
かぼちゃ	べと病	参考農薬としてベジセイバー1,000倍液を追加。	追加
	うどんこ病	ベジセイバー1,000倍液を追加。	追加(普及)
	アブラムシ類 (ウイルス媒介) コナジラミ類	<p>参考農薬としてモベントフロアブル2,000倍液を追加。  <b>【注意事項】</b>                  3. モベントは水産動物(甲殻類)に影響があるので注意する。                  4. モベントは蚕毒に注意する。                  5. モベントは不稔などの薬害のおそれがあるため、水稲にかからないよう注意する。</p>	追加
いちご	ハダニ類	<p>ダニオーテフロアブル2,000倍液を追加。  <b>【注意事項】</b>                  6. ダニオーテは銅剤との混用・近接散布により効果が減じるため注意する。</p>	追加(普及)
はくさい	白さび病	ランマンフロアブル2,000倍液を追加。	追加(普及)
	ピシウム腐敗病	ピシロックフロアブル1,000倍液を追加。	追加(普及)
	黒腐病	<p>新たに「黒腐病」の項目を設け、Zボルドー500倍液を追加。  <b>【注意事項】</b>                  1. 発病前から予防散布する。                  2. 無機銅剤は高温条件下、連続散布及び結球期の散布で薬害が発生するおそれがあるため特に注意する。薬害軽減には、炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)200倍を加用する。</p>	追加(普及)
アスパラガス	疫病	ユニフォーム粒剤の10a当たり12kgの割合での株元散布を追加。	追加(普及)
ねぎ	葉枯病	テーク水和剤600倍液、ダコニール1000の1,000倍液、アミスター20フロアブル、パレード20フロアブルの2,000倍液を追加。	追加(普及)
	ネギアザミウマ	ファインセーブフロアブル2,000倍液及び注意事項(蚕毒)を追加。	追加(普及)
	ネダニ類	フォース粒剤の10a当たり9kg作条土壌混和及び注意事項(蚕毒、魚毒)を追加。	追加(普及)

2. 雑草防除に関する主な改正点

作物名	対象病虫害等	改正内容	改正理由等
水稲 (移植栽培)	ホタルイ、ミズガヤツリの多発田	初中期除草剤としてライジンパワーフロアブルを追加。また、中・後期除草剤としてウィードコア1キロ粒剤、バيسコープ1キロ粒剤、ロイヤント乳剤を追加。	追加(普及)
	オモダカ多発田 クログワイ多発田	ノビエ3～4葉期剤としてデオーレ1キロ粒剤、シンズイZ1キロ粒剤、ガツントZ200FG、ベッカクジャンボを追加。	追加(普及)
	オモダカ多発田	中・後期除草剤としてロイヤント乳剤を追加。	追加(普及)
	雑草イネ発生田	初中期除草剤としてシンズイZ1キロ粒剤、ライジンパワーフロアブルを追加。	追加(普及)
水稲 (飼料用イネ)	水田雑草	WCS用イネ(移植栽培)に使用可能な初中期除草剤としてガツントZ200FG、シンズイZ1キロ粒剤、ベッカクジャンボ、ベッカク豆つぶ250、ライジンパワーフロアブル、ロイヤント乳剤を追加。	追加(普及)

## マルチコプターによる 病害虫防除について

### I 農業用無人航空機で 農薬空中散布を行うには

病害虫防除所 青木真美

近年のスマート農業の推進もあり、無人航空機(無人ヘリコプター、無人マルチローター)を利用した農薬空中散布の増加が顕著となっています。(無人ヘリコプター 85.3%、無人マルチローター 307.6%、いずれも令和元年度対比。)

県は「長野県無人航空機作業指導要領」を作成し、県内での無人ヘリコプター・無人マルチローターを利用した農薬散布には、病害虫防除所への届出をお願いしています。

また、航空法に基づく以下の1～3の事項についても届出等が必要となります。

#### 1 【飛行の承認】

飛行禁止区域等で飛行する場合は、国土交通大臣の許可が必要です。無人航空機による農薬の空中散布は、危険物の輸送及び物件の投下にあたるため、事前に国土交通大臣に申請し、承認を得てください。

#### 2 【機体の登録】

2020年の改正航空法により、登録していない無人航空機の飛行は禁止されています。2022年6月20日以降は、無人航空機を識別するための登録番号を表示し、リモートID機能を備えなければなりません。重量が100g以上のすべての無人航空機が登録の対象となります。

#### 3 【資格】

オペレーター(無人航空機を操作する者)は指定教習施設で無人航空機の取り扱いに関する技能認定を受けてください。

(参考) 1～3：国土交通省HP無人航空機(ドローン・ラジコン機等)の飛行のルール

[https://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk10\\_000003.html](https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html)

#### 4 【農薬について】

農薬取締法に基づき、使用方法に「無人ヘリコプター(または無人航空機)による散布」と記載のある農薬を、登録に沿った方法で使用してください。

#### 5 【危被害防止対策】

事前に散布区域に近隣する居住者や学校などの公共の施設や農畜産業者へ周知してください。散布に際してはナビゲーター(安全確認のための補助者)

を設置し、散布区域周辺の架線等の危険か所を必ず事前確認してください。

マルチローターは無人ヘリコプターに比べて風の影響を受けやすいので、農薬が飛散しないように注意してください。万が一、事故があった場合には、人命救助を第一に、二次被害が発生しないように対処し、病害虫防除所あてに連絡してください。

#### 6 【届出】

農薬を散布する場合は、散布の2週間前までに、実施計画書を策定(散布区域の地図を添付)し、病害虫防除所へ届出してください。ながの電子申請サービスからも届出が可能です。(直播、肥料、水散布の場合には不要。)

散布終了後は、1ヶ月以内に実績報告書の提出をお願いします。

(参考) 病害虫防除所HP

<https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/shinsei/mujinheri.html>

### II マルチコプターによる 病害虫防除の現状と課題

#### —コムギ赤さび病の事例—

農業試験場 中島宏和

#### 1 産業用マルチローター(MG-1)による農薬(液剤)の散布特性

近年、普通作物の生産現場では産業用マルチローター(以下、ドローン)による農薬の高濃度少量散布が急速に普及している。一方で、ドローンによる農薬散布は病害虫種によって防除効果が不安定になる懸念があり、県内で毎年多発するコムギ赤さび病はドローンによる農薬散布では防除効果が不安定になることが確認されている。そこで、ドローンによる農薬の有効散布幅内の散布特性等と効果の関係及び風の影響を調査した。



図1 ドローンによる薬剤散布のイメージ図  
現在主流となっているMG-1シリーズは8枚羽で進行方向の前面2つのノズルから薬剤を散布する。

(1)有効散布幅内における農薬の落下分散と効果の関係

ほ場内に小区画のドローンによる薬剤散布区を複数設置し、有効散布幅内に等間隔で感水紙を設置して落下分散と効果の関係を検証した。2022年に伊那市の現地2圃場において2種類の薬剤をコムギ赤さび病を対象として開花期に散布した。圃場Aにおい

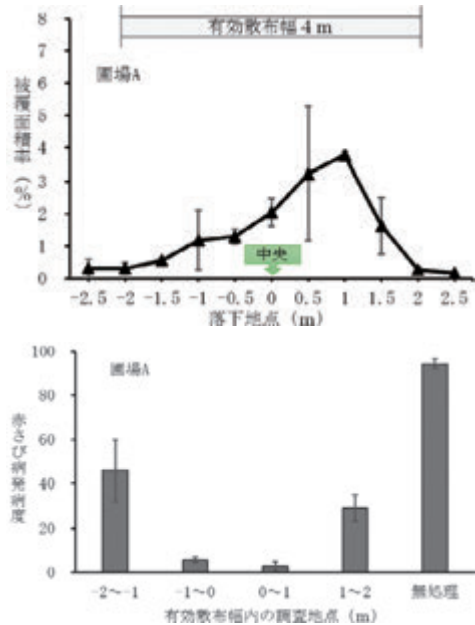


図2 薬剤の落下分散と赤さび病の効果の関係 1

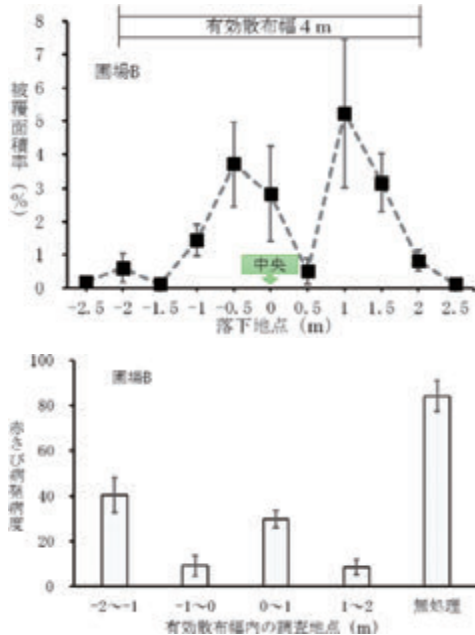


図3 薬剤の落下分散と赤さび病の効果の関係 2

試験場所：伊那市東春近 供試品種：ハナマンテン  
 散布日：2022年5月9日（開花始期）  
 供試薬剤：圃場Aはワークアップフロアブル  
 圃場Bはシルバキュアフロアブル  
 希釈倍数：16倍液、0.8L/10a  
 面積・区制：4×30m・3反復  
 落下分散調査：感水紙を飛行方向と直交して0.5m隔で草冠高に設置し被覆面積率を算出  
 調査月日：6月2日（糊熟期）  
 調査方法：1地点50枚の止葉を対象に程度別調査

て薬剤の飛散量は有効散布幅内の外側で飛散量が少なく、中央付近でも散布ムラが大きかった。圃場Bにおいて薬剤は有効散布幅内の外側で少ない傾向であり、中央でも飛散量が少なかった（図2、3上）。なお、散布時はほぼ無風であった。有効散布幅内の1mごとの赤さび病の発病調査を行ったところ、薬剤の飛散量と発病度は概ね一致しており、薬剤の飛散が少ない地点で発病が多くなった（図2、3下）。無処理区は発病葉率100%、発病度84~94の多〜甚発生であった。供試薬剤は地上散布では赤さび病に対して卓効を示すことからドローンによる散布ムラが効果の低下要因と考えられた。

(2)ドローン薬剤散布と風の影響

ドローンによる薬剤散布への風の影響を評価するため、ほ場内に小区画の薬剤散布区を設置し、風がある条件とほぼ無い条件でコムギ赤さび病に対する防除効果の得られる範囲を条ごとに調査した（図4）。試験区の周囲の番外はほぼ一様に甚発生となり、無処理区は発病度97となった。無風区ではドローンを中心に6~7条（約2m）で高い効果が得られたが、有効散布幅内の外側では効果は低下した。風有区においても6~7条（約2m）で高い効果が得られたが、効果の得られた範囲が西側へ2~3条移動した。これは東から西向きの風（ビューフォート階級2相当（1.6~3.3 m/S））によって薬液がドリフトした影響によるものと考えられた。

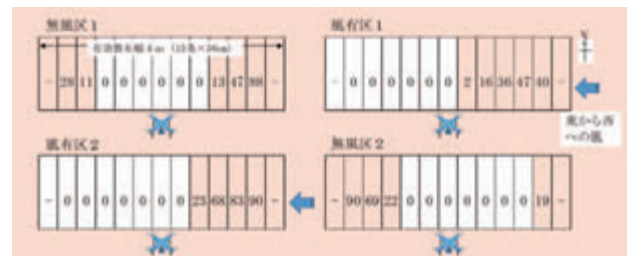


図4 ドローン薬剤散布におけるコムギ赤さび病の発病度に対する風の影響

図中の数値は条ごとの発病度、着色箇所は発病が認められた箇所であったことを示す  
 試験場所：小布施町 品種：ハナマンテン  
 供試薬剤：シルバキュアフロアブル16倍液0.8L/10a  
 面積・区制：4×6m・2反復  
 散布日：2021年5月26日（開花始期）  
 調査日：6月15日（糊熟期）  
 発病調査：各条（条間30cm）の止葉50枚を調査

(3)まとめ

以上の結果から、ドローンによる薬剤散布は一定の防除効果が得られるが、薬剤の飛散は有効散布幅内の外側で少なく、中央付近でも少ない場合があり、風によってドリフトするとの知見が得られた。ドローンによる薬剤散布は水稻の穂もちや小麦の赤かび病など比較的薬剤が付着しやすい部位に発生する病害に対しては地上散布と同等の効果が得られている。今後も試験を継続し随時情報提供を行っていく。

## 雑草イネの 防除技術について

農業試験場作物部 丸山翔太

雑草イネは「コシヒカリ」などの栽培用品種と同じ植物種であるため、一般的な雑草と同様の除草体系では防除が困難である。しかし、雑草イネに有効な除草剤、耕種の防除方法があるため、これらを組み合わせることで効果的な防除が可能である。本稿では、これまでに確立されてきた雑草イネ防除対策について紹介する。

### 1 栽培期間中の対策

#### ア 発生ほ場の全作業を後回しにする

雑草イネの種子は、トラクター、ロータリー、コンバインまで、農業機械に付着して他のほ場に拡散する危険性があるため、発生が確認されたほ場の作業は後回しするとともに、作業後は泥を洗い落とすように努める。

#### イ 代かきによる幼芽の損傷・埋没

雑草イネは春期に適温になると土中で発芽を開始する。これらを代かきにより損傷、埋没させることで防除が可能である。課題として、損傷および埋没を免れた個体が再度田面に定着し、移植時に葉齢の進んだ個体として残ってしまうことが挙げられる。このような個体は、移植後の除草剤による防除が困難であるため、損傷および埋没効果を高める代かき方法が必要である。この課題解決に向けて、現在、農業試験場では代かき効果を最大限に発揮できる水深、代かき回数等の作業体系について検討中である。

#### ウ 有効な除草剤による防除

雑草イネが発生したほ場では、直播栽培をしている場合は移植に戻し、有効な除草剤を雑草イネ出芽前～鞘葉抽出期までの間に処理する。雑草イネは、1葉を超えると除草剤の効果が見込めず、また、出芽が一斉ではないため、除草剤の効果が長期間持続するために、体系防除が必要である。現在、長野県では、初期剤、初中期剤、中期剤の3剤を7～10日間隔で処理することを推奨している。この間は、ほ場を常時湛水状態に保ち、除草剤の効果を低下させないことが重要である。

雑草イネに有効な除草剤はプレチラクロール、ペントキサゾン、フェノキサスルホン、インダノファン、イプフェンカルバゾン、オキサジクロメホン、ベンフレセート等の有効成分を含んだ除草剤を普及技術として公表している。

詳細は長野県農業関係試験場のホームページから普及技術を閲覧するか、県病害虫・雑草防除基準を参照いただきたい。

#### エ 手取り（抜き取り）除草

代かきおよび除草剤による防除での取りこぼしがある場合、収穫期に脱粒し、翌年以降の発生源となり、対策期間が長引く要因となる。これまでに紹介した移植後の本田防除を実施しても、100%の防除は現状では困難であるため、対策の仕上げとして実施する。抜き取りのポイントは、条間・株間に生えているイネを、漏性イネ、雑草イネに関わらず抜き取ることである。抜き取り実施時期は、株の生育により、条間・株間が見えにくくなる前が採り易く、適している。また、出穂期以降に稈長が長い、ふ先色および芒の色が赤い、出穂登熟の早晩などに差がみられる個体などがないか、最終確認を行う。

### 2 収穫後～冬期の対策

#### ア 秋耕の禁止

雑草イネが発生した当年は、秋耕をせず、地表にこぼれた雑草イネ種子を越冬中の低温で死滅させる、または鳥類や小動物等の摂食を促すことで、最大30%程度の低減が見込める。

#### イ 収穫後の石灰窒素処理

水稲収穫後、または翌春の耕起までに石灰窒素50kg/10aを処理する。石灰窒素に接触した雑草イネ種子は、石灰窒素の有効成分であるシアナミドの影響で発芽能力を失うため、ほ場内の種子量を減らすことが可能である。雑草イネ種子と石灰窒素が接触する必要があり、埋土種子には効果が劣るため、秋耕は行わない。春処理の場合も処理後3週間は不耕起とする。また、収穫後の稲わらが存在すると効果が低下するため、持ち出し等の対応が必要である。石灰窒素は窒素分を含んでいるため、処理したほ場では、翌水稲作の施肥窒素を3kg/10a程度減肥する（平成30年度普及技術）。

### 3 畑作物への転換

雑草イネ発生ほ場は、畑作物に転換することで、耕起、除草等の影響を受け、雑草イネを減少させることができる。輪作が可能な地域はダイズ、ソバ等の畑作物との輪作が有効である。

### 4 総合防除の重要性

以上、個別技術を項目別に紹介してきたが、個別の技術では十分な防除効果が上げられないため、雑草イネの発生レベルに応じて、これらの技術を組み合わせて対策を実施する。また、ほ場単位の防除対策に加え、関係機関との連携により、地域の発生状況の把握と啓発、拡散防止対策も併せて総合的な対応が重要である。

話題の農薬

害虫防除のテッパン技



農林水産省登録番号：24023号 有効成分：シクラニプロロール…4.5%

■はじめに

テッパン®液剤の有効成分シクラニプロロール（通称サイクラプリン）は、石原産業株式会社が発明・開発したジアミド系に分類される殺虫剤です（IRAC：28）。テッパン®液剤は重要害虫の様々なステージにおいて、安定した効果を発揮するため、害虫の被害から作物を守ることができます。

■作用メカニズム

シクラニプロロールは、昆虫の筋細胞に存在するリアノジン受容体を活性化し、筋小胞体のカルシウムイオンを細胞質に異常放出させます。それにより筋肉のけいれんや萎縮を引き起こし、昆虫の行動は速やかに阻害され死に至ります。また、シクラニプロロールは昆虫のリアノジン受容体を選択的に作用するため、ヒトへの安全性が高い化合物です。

■特長

①幅広い殺虫スペクトラムで重要害虫の同時防除が可能

チョウ目害虫だけでなく、ハエ目、カメムシ目、アザミウマ目および甲虫目等の幅広い害虫に効果を示します。そのため、一回の散布で複数の重要害虫の同時防除が可能です。また近年、果樹分野で問題害虫となっているクビアカツヤカミキリに

対しても高い効果が期待できます。

②害虫の幅広いステージで安定した効果を発揮  
幼虫の発育ステージや温度に関わらず高い効果を示します。また、成虫に対しても殺虫活性や産卵抑制効果をあわせ持ちます。

③速やかな食害抑制効果  
主に食毒により作用しますが、経皮的にも薬剤が取り込まれ、速やかに中毒症状を示し、摂食行動を停止させます。

④優れた耐雨・残効性  
耐雨性、残効性に優れるため、散布後長期にわたって安定した効果を示します。

■さいごに

果樹、茶樹分野において、多くの生産者様に“害虫防除のテッパン技”としてテッパン®液剤をご愛顧いただけますと幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

\*テッパン®液剤に関する情報は、こちらの製品ページからご覧いただけます。



植防短信

長野県農薬卸商業協同組合総会開催される

長野県農薬卸商業協同組合の令和5年度(第77期)通常総会が2月15日長野市で開催されました。

令和5年度事業計画では、農薬安全コンサルタントリーダー等の農薬関係資格の取得推進が承認されました。農薬安全コンサルタントリーダーは、農業生産現場において農家の病虫害防除の要請にこたえられる技術的裏付けを持った営業マンの養成を全国

農薬協同組合が平成25年から進めているものです。全国では今まで160名が認定されていますが、長野県は最多の26名います。

また、役員改選があり次のとおり決定しました。  
理事長 桜井孝、専務理事 丸田貴司、常務理事 林浩久、理事 廣田光彦、理事 海野安彦、理事 海野晴彦、理事 田中篤、監事 岡沢洋文、監事 相馬栄治郎（任期令和5年2月～7年2月）

なお、各委員会の委員長は次のとおり選任されました。

総務委員長 林浩久、経済委員長 田中篤、  
教育情報委員長 廣田圭亮

（長野県農薬卸商業協同組合 近藤弘利）

## 地域情報

### JA信州諏訪セルリー専門部会生産者大会 及び試験報告会が開催されました

諏訪地域が生産量全国 1 位を誇るセルリーにおいて、ファイトフィトラ属菌による新病害（仮称：セルリー疫病）の発生が確認され、多くの生産者が対策に苦慮しています。これを受けて、諏訪農業農村支援センターとJA信州諏訪では、生産者を対象としたアンケート調査や巡回指導により、当該病害の発生実態を把握するとともに、指導会の開催や県野菜花き試験場と連携した防除対策の構築に取り組んでいます。

こうしたなか、令和 5 年 1 月 24 日に、「セルリー専門部会生産者大会及び試験報告会」が開催され、部会員、JA職員ら約 50 名が出席しました。

会議の中では、令和 4 年度の販売実績や令和 5 年度の販売計画等の説明が行われた後に、JA、野菜花き試験場、支援センターの各担当職員から令和 4 年度に実施したセルリー疫病に関わる試験結果の報告が行われました。

支援センターからは、令和 4 年 10 月に実施したアンケートの調査結果と考察を、また、野菜花き試験場からは防除技術および「セルリー芯なし症状」に関する試験の結果について報告がありました。

疫病の発生動向や現時点における対策技術のほか、排水対策など昨年に比べて疫病の発生が減少した農家の取組内容について理解が深まる良い機会となりました。

今後も、セルリー産地の維持・発展のために、JA など関係機関と連



携しながら疫病対策に取り組んでいきます。

(諏訪農業農村支援センター 木村美春)

### 水田転換畑におけるもみ殻簡易暗渠施工 による排水性改善の取組

上伊那地域においても水田を活用した高収益作物の導入が進められていますが、畑地に転換して野菜等の栽培を行うには、排水性の改善が重要となります。特にアブラナ科野菜では、近年多発している集中豪雨による湿害の影響で、根こぶ病の被害が拡大し、対策が急務となっています。

排水性の改善については、カットブレーカー等を用いた耕盤破碎によるほ場の透水性の向上等が現地で行われていますが、今回は、湿害が問題となっているブロッコリー栽培ほ場において、もみ殻簡易暗渠施工を行い、効果を検証していくこととしました。

もみ殻簡易暗渠施工は、もみ殻を筋状に埋設して排水性の改善を図るとともに、もみ殻に含まれる炭素を土中に貯留することにより、二酸化炭素（温室効果ガス）の抑制効果も期待されています。

施工は、令和 4 年 12 月 6 日に伊那市富県地区の 13.5 a のほ場で実演会を兼ねて実施され、もみ殻暗渠施工機（「モミサブロー」：スガノ農機株式会社製）により、ほ場内に深さ 15 cm から 37 cm、幅 4 cm でもみ殻を充填し、簡易暗渠を敷設しました。施工暗渠本数は 14 本（総施工距離は 501.3 m）で、1 m あたりのもみ殻使用量は 1.8 kg（15.0 ℓ）、投入したもみ殻の総量は 906 kg（7.5 m<sup>3</sup>）となりました。

次年度、このほ場でブロッコリーの生育、収量、病害虫発生状況等の調査を行ないながら、排水性の改善効果を確認する予定です。



もみ殻簡易暗渠施工実演会のようす  
(上伊那農業農村支援センター 田中敬志)

## 協会だより

●令和 5 年版「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」  
販売中【800 円（消費税込み、送料別途）】

※ 問い合わせ・ご注文先

（一社）長野県植物防疫協会事務局

または、最寄りの農業農村支援センター

### 【行事】

- 1 月 23、24 日 試験研究推進会議果樹部会  
(須坂市、Web)
- 1 月 30、31 日 試験研究推進会議病虫部会  
(須坂市、Web)

- 1 月 31 日 植物防疫史（第 6 集）編集委員会  
(須坂市、Web)
- 2 月 10 日 令和 5 年度農薬展示ほ設置打合せ会議  
(長野市)
- 2 月 10、13 日 試験研究推進会議作物部会  
(須坂市、Web)
- 2 月 13、20 日 農薬管理指導士更新研修会 (Web)
- 2 月 14、15 日 試験研究推進会議野菜花き部会  
(塩尻市)
- 2 月 17 日 GLP 作物残留試験推進会議 (Web)
- 2 月 22 日 農薬指導管理士養成研修会 (塩尻市)

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。  
URL は <http://www.nagano-ppa.jp/> です。